松本は周囲の山々から生まれでる
清らかな水を地下にたくわえた町です。
水をテーマに、歴史や町並みを
歩いて楽しめるコースをご案内します。

まつもと
MATSUMOTO
水巡り
SPRING WATER EXCURSION

https://visitmatsumoto.com

発行：松本市、松本観光コンベンション協会、新まつもと物語プロジェクト

水の生まれる街

所要時間 約35分

水音が聞こえる。
湧き出した水が集まって川となり、
人々の生活を支えてきた街を歩く。

1. **日の出の泉 薬祖水**
   薬祖神社には「薬の神様」が祀られている
2. **伊織霊水**
   百姓一揆「加助騒動」の農民たちの救済に尽くした鈴木伊織がここに眠る
3. **中町**
   蔵のまちで有名
4. **蔵の井戸**
   宮村町にあった造り酒屋を移築再建
5. **源智の井戸**
   天保14年に著された「善光寺道名所図会」に“当国第一の名水”と称賛されている井戸
6. **古民家の前の水路**
   水音に耳をすまして
7. **源地の水源地井戸**
   江戸時代からの町屋の水源

時代とともに守られた水

所要時間 約30分

平安時代の官道の
旅人の泉。戦国時代・江戸時代から
人々の暮らしの中にあった水。
そして、現在へと続く。

1. **ナワテ通り**
   カエルのまちで有名
2. **鎮神社（しずめ）**
   女鳥羽川の氾濫を鎮めるために建てられた神社

▼ **山家小路、裏町を通って鯛萬小路へ（やまべ）**
鯛萬小路の入り口は見落としやすいので注意
看板あり

3. **鯛萬の井戸**
   かつてここに料亭「鯛萬」があり名付けられた
4. **槻井泉神社の湧水（つきいずみ）**
   高さ20mのケヤキの下に湧く泉
   平安時代には近くを官道が通った
   古くからの水場
5. **女鳥羽の泉**
   松本市街地唯一の醸造元
   湧水で作る酒や甘酒は美味と評判

お堀の水をたどる

所要時間 約20分

松本城のお堀の水が
街を縫うように流れている。
その水の行方をたどる。

1. **北門大井戸**
   総堀を埋め立てたときに湧き出した水
2. **片端の総堀**
   松本城の総堀で残っているのはここだけ
3. **東門の井戸**
   ここに松本城の東門馬出しがあった

▼ **松本ホテル花月の脇の階段を降りる**

4. **外濠小路**
   「上土（あげつち）」の名の由来となった
   堀の土を上に上げた場所
   道の両側に高低差がある
5. **ナワテ横丁**
   総堀の水を流す水路が流れている
6. **緑橋**
   かつての水路の名残
7. **女鳥羽川**

松本の川

松本城周辺には、女鳥羽川、薄川、田川、大門沢川と、自然の防壁を巡らしたかのように川が流れている。
また、市街地には、蛇川、榛の木川、長沢川、紙漉川と呼ばれる水路が流れている。
これらの水路は、江戸時代には庶民の生活用水や防火用水、町の境目として重要な役割を担っていた。

井戸・湧水と歴史

槻井泉神社の湧水
古来、滾々と湧出し、この地のシンボルになった湧水。この地域の地名『清水』もこれに由来する。江戸時代・水野氏時代には、この水によって染色や製紙の産業も起こった。樹齢300年と言われるケヤキは市天然記念物に指定。

北門大井戸・北馬場柳の井戸
明治維新後、松本城の総堀は埋め立てられていった。まず埋め立てられたのが南総堀。徐々に北側に埋め立てが進められた際、水が湧いてきたのが北門大井戸。北馬場柳の井戸は江戸時代の城下町絵図にも同じ場所に井戸の印があるが、やはり総堀埋め立てにともなって井戸として再整備された。

井戸の名前の由来

伊織霊水
貞享３年（1686）重税に反対した百姓一揆「加助騒動」に関わった百姓たちの助命救済に奔走した武士、「鈴木伊織」が眠る墓の入り口に湧出していることからこの名がつけられている。

東門の井戸
松本城の東門で、最大の馬出し※があった場所に作られたことからこの名が付いた。城内に町民や農民が入る場合はこの東門から入った。井戸は平成20年に整備されたもの。
※馬出し：城の出入口に設けられた小規模な曲輪で、出撃するときの拠点

松本城下町の親町三町・枝町十町・二十四小路

区分	親町	枝　町	小　路	備　考
1	本町		① 天神小路	『信府統記』は天神馬場小路
			② 鍋屋小路	「元禄図」は飯田町入小路
			③ 生安寺小路	「元禄図」は玄知通り
			④ 同心小路	元禄9年開通　町同心小路
		(1) 馬喰(博労)町	――	
		(2) 伊勢町	⑤ 鍛冶小路	
			⑥ 神明小路	
2	中町		⑦ 新小路	
			⑧ 一ツ橋小路	
			⑨ 裏小路	
			⑩ 神明小路	
			⑪ 本立寺小路	
			⑫ 広福寺小路	
		(3) 飯田町	――	
		(4) 小池町	――	
		(5) 宮村町	⑬ 庚申小路	
			⑭ 風呂屋小路	『信府統記』に記載あり
			⑮ 源智小路	『信府統記』は玄知小路
3	東町		⑯ 山家小路	旧『松本市史』は山邊小路
			⑰ 桜河岸小路	
			⑱ 正行寺小路	
			⑲ 塩屋小路	
			⑳ 二ツ井戸小路	
			㉑ 作左衛門小路	
		(6) 和泉町	㉒ 長称寺小路	
			㉓ 観音小路	
		(7) 安原町	㉔ 常法寺小路	
		(8) 上横田町	――	
		(9) 下横田町	――	
		(10) 山家小路	――	

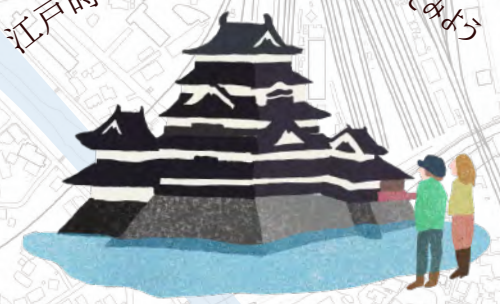
監修　松本市立博物館　　協力　松本城管理事務所　2008.3.31

凡　例

- 町　人　地
- 武　家　地
- 寺　社　地
- 古地図による堀
- 現存する堀・川
- 石垣・土塁
- 道
- 番　　所
- 建　造　物
- 善光寺街道
- 野麦街道

松本城下町復元図

江戸時代の松本のまち　想像してみよう



「享保十三年(1728)秋改松本城下絵図」を原図として、
そこに平成29年の都市計画図を重ねた復元図です。

この地図は、松本市長の承認を得て、松本市作成の松本市基本図1/2,500を使用したものである。
(承認番号 平29松建政指令第319号)

松本城は典型的な近世城で、城郭・城下町とも計画的に造られています。復元図中央の城郭部は、北側と西側は約600m、東側は約650m、南側は約400mの長さの逆台形の形をしています。郭内の標高差が大きい平城ですから、防衛はもっぱら三重の水堀と石垣や土塁などの塁に頼る縄張りです。郭は中央から本丸、二の丸、三の丸といいます。郭内の三の丸には上級家臣の屋敷を配置して藩主を守り、水堀をへだてた城下町とは5カ所の虎口(出入口)で接続しています。

城下町は南から北への展開で、南・馬喰(博労)町の木戸から北・安原口の木戸まで歩いて約2.7kmあります。そのうち町人町は女鳥羽川の南に中心を置きながらも、すべて善光寺街道沿いに配置されています。武家地は町人地とはっきり境界を分け、北部中心に配備されています。町人地のさらに外側、東から南にかけて寺社を配置し有事の際の防御空間としてあります。

松本は、四神相応の地

四神相応(しじんそうおう)とは、東西南北の四方向を守る四神の存在に最もふさわしいといわれる地形や地相のことをいう。四神とは、「東＝青龍＝大河」「西＝白虎＝大道」「南＝朱雀＝開けた地」「北＝玄武＝山や丘」で、地理的に松本は「東＝大きな川＝女鳥羽川」「西＝大きな道＝千国街道、野麦街道、奈良井川、犀川」「南＝開けた地＝大きな平野」「北＝大きな山＝城山、伊深、稲倉」と理にかなっている。

この図は「享保十三年(1728)秋改松本城下絵図」を原図として、そこに平成29年の都市計画図を重ねた復元図です。

松本城下町の構成は親町三町・枝町十町・二十四小路とよばれ、美濃の人豊田利忠が著し嘉永2年(1849)に刊行された『善光寺道名所図会』に松本のまちは「松平丹波守居城にて、七万石を領せらる、城下の町広く、大通り十三街、町数凡四十八丁、商家軒をならべ、当国第一の都会にて、信府と称す(実際は六万石)」とあります。

ここでは原図に掲載してある町名・小路名にくわえ、世に「親町・枝町・二十四小路」とされた町や小路に番号を付して示してみました。